

独立行政法人地域医療機能推進機構 群馬中央病院
令和7年度第三回地域協議会議事録

【日時】令和8年1月29日（木） 14:00～14:40

【場所】群馬中央病院 別館2階 大会議室

【出席】12名

國代 尚章（群馬県健康福祉部長） 代理：高橋 淳（群馬県健康福祉部 副部長）

猪俣 理恵（前橋市副市長）

下田 哲也（前橋市消防局長） 代理：琴寄 敏行（前橋市消防局参事兼救急課救急課長）

川島 崇（群馬県医師会副会長）

外山 卓二（前橋市医師会病診連携担当理事）

清水 奈保（群馬県看護協会専務理事）

高橋 功（紅雲町一丁目自治会長） 代理：平田 卓也（紅雲町一丁目自治会 副会長）

内藤 浩（群馬中央病院院長）

伊藤 理廣（群馬中央病院副院長）

青野 努（群馬中央病院事務部長）

茂木 香里（群馬中央病院看護部長）

蟻川 勝（群馬中央病院薬剤部長）

【欠席】3名

須田 浩充（前橋市医師会会長）

細内 康男（社会福祉法人恩賜財団済生会支部群馬県済生会前橋病院長）

寺内 正紀（群馬中央病院副院長）

【議事概要】

1. 院長挨拶

2. 委員紹介

3. 活動報告

（内藤議長）

- 11月までの経常収支は、JCHO 東日本地区病院の中で一番いい成績が出ている。
- 病床利用率は8割前後で推移している。
- 紹介患者数が非常に多いことが特徴。現在までに7,000人、昨年度の11,000人を上回る予想。最近は高齢者救急のため後方施設からの紹介も増えている。
- 今年度の救急車受け入れは2,800件ほどの見込み。10年前は1,500件ほどであり、少しずつ増加している。診療科別では内科が多い。また、小児科の救急が多いことが特徴。
- 救急応需率は約84%となっている。昼間の受け入れに関しては100%にしましょうということの日頃から職員に伝えている。
- 救急車からの入院が増加した。重症患者を受け入れる頻度が多くなってきた状況。

- NICU の稼働はほぼ 100%。
- 健康診断では 3 月 4 月の閑散期にいかにして利用者を増やすかを考えている。年間では 5 万人ほど利用いただいております、健全運営ができています要因のひとつである。
- 健診事業では JCHO 東日本地区病院の中で二番目にいい成績である。
- 医師確保は非常に重要であり、近年は研修医の定員に対してフルマッチしている。昨年は定数 7 名のところ 29 名の応募があった。今年は 8 名にしたが、指導医の数が足りず、現場の負担感があることから、7 名に戻した。今年の +1 名分は JCHO 奨学金制度活用されている方。
- 認定看護師等の無料派遣をおこなっている。講師としていろいろな施設に出向している。要望いただければ薬剤師、栄養士も伺わせていただく。
- リレーフォーライフは非常に多くの職員が参加した。
- 薬剤師会の方の協力も得て、地域の方に来ていただき、院内で健康まつりを初開催した。血圧を測ったり、健康相談をした。年々大きくしていきたい。
- 待ち時間対策として、ロビーでミニ健康教室オアシスを開催している
- 初めてリフォーム産業協会とコラボレーションしてセミナーに参加してきた。退院後を見据えた整理、病気が治っても家に帰れない、生活ができなくて困る、といったことを考えようというセミナーをおこなった。
- 病院のインスタを開始した。

以上が現在までの活動報告。

4. 意見交換

(高橋代理)

救急応需率が上がったことについては、救急体制を見直したなど、何かあるか。

(内藤議長)

救急体制の見直しまでは至っていないが、昨年より救急車の件数を増やす、できれば 85%、という目標に向かって職員に努力いただいている結果。

(高橋代理)

看護師不足と病院薬剤師が定着しないことについて伺いたい。

(内藤議長)

病院薬剤師については今年度から奨学金の肩代わりをすることをやっている。

6 年制の学校に行って、その奨学金を返すためには初任給のいいところに行ってしまう。公的な病院は初任給が少なく集まりづらいという状況にあり、その部分を補填する意味で奨学金の肩代わり、来てくれた方に一時金、という制度を独法本部で作った。

薬剤師は本部採用であり、東京などで採用するため応募者も増えてきたかなと思う。

(茂木委員)

看護師はコロナの時は県内採用が多く、当院もそれなりに採用があった。
コロナ後は県外に出ていく人が多くなったが、採用に困るようなことはなかった。
ただ、地方の JCHO 病院では派遣会社に頼るようなところもある。

(高橋代理)

新卒は大学の看護学部の方が多いのか、看護学校の方が多いのか。

(茂木委員)

ほぼ半々である。最近は県外に出ていく人もいて、大学は以前と比べて多少減っている。

(高橋代理)

群馬県は大学の看護学部が多い県であるが、県内就職が少なく、我々も何とかしなくてはいけないと思っている。

(猪俣委員)

救急の受け入れ等、いろいろところで努力いただきありがたいと思っている。
また、イベント等地域に開かれた運営をされており心強く思っている。
無痛分娩の取り組みについて、傾向などを伺いたい。

(伊藤委員)

小児科では NICU の本格稼働以降、週数の若い新生児の受け入れを積極的に行うようにしている。そのあたりのニーズの高まりもあり NICU は常に満床となっている。
後方ベッドもいくつもあり、有効に使いながら NICU が常時 100% となるような取り組みをしているところ。小児科の医師が非常に多いため、NICU 以外の小児に関してもある程度 24 時間受け入れている。産婦人科も県内では比較的医師が多いため 24 時間体制で受け入れをしている。

無痛分娩に関しては、東京都では補助金を出すと決めたこと等もあり、希望すればどこでもできるのでは、との世の中の流れを受け、当院でも今年から無痛分娩を取り入れている。今後保険化された場合や、どのくらいの負担が必要なのか等が全然つかめていないため、そのあたりのサポートを市でおこなっていただけると利用する患者さんが増えるのでは、と思っている。

(猪俣委員)

実際に無痛分娩を利用される方はどれくらいの数で増えているのか。

(伊藤委員)

正確にはわからないが、市内の開業医の先生方を見ていると、かなりの率で無痛分娩を希望される患者さんがいるようだ。

(内藤議長)

麻酔科の先生が協力してくれるとのことで、新たに専門の麻酔科の先生を雇わなくても院内の先生方でまわしていける。地域周産期の施設であり、小児科と産婦人科をもっていることから、少し難易度の高い診療もできるのかなと思う。

無痛分娩に関しては今後必ず人数が上がっていくと思っているため、やっていかないとお産そのものの数が減っていくと考える。

(猪俣委員)

特定保健指導については増やしていく方向でやっていただけると前回出席の際に伺い、初回を当日中に行い、今後とも増やしていきたいということで心強い言葉をいただいた。前橋国保の特定保健指導率が厳しい状況となっているため、引き続きご協力をいただきたい。

(内藤議長)

昨日の健康管理センターの会議の中で、特定保健指導が増えていることと、当日も増えていることの報告を受けた。健診者が多くいるため、病気を事前に防ぐという運営を今後もしていきたい。

(琴寄代理)

前橋消防局令和7年の速報値は、救急件数が20,971件。前年比+507件。コロナ禍以降、高齢者率等々もあり年々増えている。群馬中央病院では昨年2,383人収容していただいた。前年比+146人。ありがたく思っている。うち小児は442人と搬送の20%弱と本市消防局の3分の1を群馬中央病院に搬送している。

また、地域連携室にご尽力いただき2月2日(月)と3月3日(火)の2回、研修会で産婦人科部長の亀田先生にお世話になる。消防、救急隊員の教育、ご指導をいただくことについてありがたく思う。

(内藤議長)

できるだけ救急隊との情報交換をしたいと思っている。そのことによってお断り率が減るのでは、ということ、病院でできること、できないことを救急隊の方々にも知っていただきたい。コロナ前は救急隊が病院に来て、診療部長もみんな参加して意見交換を行った。コロナがあつて途切れてしまったが、できればそのようなことも復活したい。

(外山委員)

東日本地区病院での黒字が1位ということ、リレーフォーライフや地域の健康まつり等素晴らしい活動状況である。ミニ健康教室などは他の病院ではなかなかやっていない取り組みではないか、と思う。Instagram開設も画期的だと思う。

紹介患者数7,000人と断トツでありすごいことである。

紹介については、逆紹介率では如何。

(内藤議長)

逆紹介率は70数%くらいでやや低い。

(外山委員)

それは他院に行くということか。

(内藤議長)

小児などでは救急車で来院し、お薬を一回出して終わり、ということもあり、やや低いと

いっても地域医療支援病院の平均よりは高いため、そういう意味では標準的な数字である
と知っている。

(外山委員)

応需率が85%近くになっており、救急車の入院も多く、重症患者を受け入れていることは我々
にとってもありがたい。奨学金制度の取り組みも素晴らしいと思う。

(内藤議長)

本部が作った制度を活用している。

(外山委員)

資金は本部からの運用で実施しているのか。

(内藤議長)

各病院からで運用している。

(外山委員)

看護師がいろいろなところから来ていると伺ったが、訪看から来るような方もいるか。

(茂木委員)

いる。

(外山委員)

認定看護師等の無料派遣は、先方からすれば無料で来てもらえ、一方本人は病院職員として
派遣されるから、その給与は病院のほうから出る、と考えると、あくまで病院の仕事として
実施していること、という理解でよろしいか。

(内藤議長)

病院の仕事として実施している。これも地域貢献のひとつだと思っている。

(清水委員)

無痛分娩は計画分娩であるか。

(伊藤委員)

計画分娩である。

(清水委員)

平均在院日数の状況は如何。

(内藤議長)

だいたい12~13で落ち着いている。

(清水委員)

この病床で12~13でこの病床利用率となるとすごくがんばっていると感じる。

(内藤議長)

看護部に努力いただいております、クリニックの先生方とも話しをさせていただきながら、ベッ
ドコントロールしている。

(清水委員)

どのような工夫をされているのか。

(茂木委員)

ベッドコントロールについては、1日2回、必要であればそれ以上の回数、師長が集まってベッドコントロールをしている。

入退院は、前日にDPCを見ながら考える等師長が慣れてきたところ。

最初は大変だった。ベッドコントロールはみんなが集まって調整する、ということが必要。

(清水委員)

素晴らしい取り組みであり、そのような空気になっていることが何より素晴らしいと思った。

(平田代理)

私は以前に膝を骨折し、群馬中央病院に3か月弱入院していたことがあった。

軟部腫瘍の関係で他病院にも入院していたことがあった。

比較することではないかもしれないが、群馬中央病院の看護師さんは患者の精神的なケアをよくしてくださる。リハビリがうまくいかず、その分入院が長引いてしまったが、“必ず元に戻るから、大丈夫だから。”といった優しい一言をいただき、常に患者さんのことを見てくれている、というのをすごく感じた。おかげさまで今は不自由なく仕事ができている。本当に感謝している。大変な仕事だとは思いますが、これからも皆で支えあって自分たちと町民のために頑張っていただければと思う。

(内藤議長)

地域医療の要になることがわが独法の柱のひとつである。夏祭りなどのイベントを通して地域とつながっていきたいと思う。ぜひ自治会もお願いしたい。

(川島委員)

今後とも前橋だけでなく、広域地域のドクターとできるだけうまく連携いただき、頑張っていたいただければと思う。

(内藤議長)

経営をしっかりすること、それから群馬県、前橋市と協力しながらより広い守備範囲でやっていくことを求められている、と思っている。

先生方には、今後ともぜひよろしくお願いしたい。

本日のご意見を整理させていただき、病院の運営に活かしていきたい。

以上